

出品番號	審査番號	形状	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住	所	氏名
四八六	二五三	二	二七	二七	二七	一五	八八	二等	靜岡縣	川崎村	縣立農學校
一七一	二〇二	一五	一八	二四	一五	一五	八七	同	靜岡縣	八女郡川崎村	古賀儀一郎
一五九	三二七	一四	一四	二七	一七	一五	八七	同	三重縣	津市	茶業組合聯合會議所
一七四	二〇三	一五	一七	三三	一六	一五	八五	三等	福岡縣	八女郡福島町	許斐久吉
一七三	二〇四	一五	一七	三三	一六	一五	八五	同	同	邊春村	大石琢磨
一七二	二〇〇	一五	一八	三二	一六	一五	八四	同	同	羽大塚町	上野千代吉
四八二	二三五	一三	一八	二四	一六	一四	八〇	同	靜岡縣	茶業組合聯合會議所	所屬製茶研究所
一八一	二二七	一四	一八	二四	一四	一二	七九	同	三重縣	三重郡	茶業研究所
五〇九	三三四	一四	一八	二四	一五	一二	七九	同	靜岡市	北番町	吉村愛人
七〇二	六九九	二二	一八	二〇	一四	一二	七〇	同	高知縣	土佐郡旭村	大黒徳太郎
一七五	二〇二	二二	一六	二七	一五	一三	七〇	同	福岡縣	八女郡黒木町	松木虎藏
一六九	一九九	二〇	一八	二七	一四	一四	七〇	同	三重縣	飯南郡粥見村	大西良平
一六一	三三八	二二	一六	二四	一四	一四	七〇	同	同	三重郡海蔵村	野崎善三郎
三三三	五〇二	二三	一五	二四	一四	一四	七〇	同	京都府	紀伊郡伏見町	芦田岩吉
五三三	五三四	二三	一六	二三	一三	一四	七〇	同	兵庫縣	三	茶業組合聯合會議所
一五三	五三四	二三	一六	二三	一三	一四	七〇	同	三重縣	高知市九反田	茶業組合聯合會議所
一五二	五三四	二三	一六	二三	一三	一四	七〇	同	高知縣	高知市九反田	尾立吾之助

磚茶ノ部 (綠磚茶)

出品番號	審査番號	形状	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住	所	氏名
四三二	一八二	四五	一六	八	八	八	八五	二等	靜岡市	安西	磚茶株式會社

參考品

出品	審査	形状	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住	所	氏名	
玉露									京都府	宇治郡宇治村	茶業組合聯合會議所	
同									京都府	宇治郡宇治村	松尾清之丞	
同									京都府	宇治郡宇治村	林屋製茶所	
煎茶									同	紀伊郡向島町	玉井源次郎	
同									同	同	伏見町	築山甚三郎
同									同	市寺町通二條上ル	渡邊辰三郎	
同									同	市寺町通二條上ル	繁田武平	
同									同	市寺町通二條上ル	安倍郡茶業組合	
ル再製茶									同	同	中村圓一郎	
再製茶									同	同	湯淺製茶所	
紅茶									同	同	三好徳三郎	
烏龍茶									同	同	三好徳三郎	

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

熊本縣阿蘇郡北小國村
同 鹿本郡岩野村
靜岡縣榛原郡中川根村
同 志太郡東川根村
靜岡縣榛原郡川崎町
同 志太郡朝比奈村
埼玉縣入間郡豐岡町
同 同
同 同 元狹山村
同 南埼玉郡日勝村
同 北足立郡大砂土村
京都府相樂郡湯船村
同 同
同市西堀川通出水上ル榎屋町
同 府相樂郡東和東町
同 同 上狛村
同 同 高山村
同 市五條通り室町西入
同 府相樂郡大河原村

村 役 場
棚倉寅藏
太田泰次
福山芳平
盛改良組
朝比奈要作
中村芳五郎
野村平吉
關谷庄吉
齋藤長三
飯倉常八
中西平三郎
杉本淳之助
加納音四郎
久保喜之助
小島德松
奧出嘉四郎
藤川嘉四郎
野殿龜太郎

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

茶茶茶

京都府紀伊郡伏見町
三重縣三重郡菟野村
大阪府豐能郡秦野村
大阪府東區內平野町二丁目
奈良縣山邊郡波多野村
同 丹波市町
同 同 福住村
同 同 波多野村
同 同 添上郡田原村
同 同 東山村
同 同 大柳生村
同 同 東山村
岐阜縣加茂郡東白川村
滋賀縣栗太郡大石村
同 愛知郡東小椋村

西村伊之助
土方文英
山田友吉
稻葉藤兵衛
大谷安吉
福田龜太郎
西田兼松
中尾嘉三郎
西澤捨治郎
今中新一郎
下出源三郎
東村巳之助
橋本製茶改良組合
村田清左衛門
白木彌五郎

碾

茶

規定第三條ニヨル參考品

京都府久世郡小倉村

小山元次郎

大正六年十月二十四日
正五位勳三等 大谷嘉兵衛

謝 狀

何 府 縣

何 某 殿

静岡縣茶業組合聯合會議所ニ囑託シタル第二回全國製茶品評會ノ開催ニ當リ參考トシテ貴
下出品ノ何茶ハ品質最モ優良ニシテ斯業進步發展ノ上ニ其ノ効果誠ニ著大ナルコトヲ認ム
仍テ茲ニ謝意ヲ表ス

大正六年十月二十四日

茶業組合中央會議所會頭

正五位勳三等 大谷嘉兵衛

記 念 狀

右本會主催第二回全國製茶品評會ニ出品セラレ當業者ノ參考ニ資スル處尠カラス仍テ茲ニ記念狀ヲ贈
リ感謝ノ意ヲ表ス

大正六年十月二十四日 京都府茶業組合聯合會議所會頭 玉井源次郎

宛

大正六年度紅茶研究事業經過報告

本年度事業一番茶期ニ對スル經過ニ就テハ曩ニ報告シタル處アリシカ茲ニ全期ヲ通シテ重ネテ其梗概ヲ報告スヘシ
本年度ニ於ケル工場ノ設備ハ醱酵室ノ改修ニ加ヘテ製産力ノ増進ト精製作業ノ速進トヲ期シテ大形採捻機二臺、仕上用切斷器附平行
篩一臺及唐箕二臺ヲ新調シタルニ止リ之カ使用ハ二番茶期ヨリ成シ得タルモノトス
而シテ本年度作業期間ハ五月二日生業ノ買入ニ開始シ一番二番三番期ヲ經テ四番茶期ナル十月十一日ニ至リ生業相場ノ暴落ニ鑑ミ斷
然製造ノ打切ヲ成シ以後精製仕上ニ從事シ全作業ヲ了リタルハ十月三十一日ナリトス其ノ工程ヲ大別スレハ左ノ如シ
一番茶 自五月二日至六月五日三十五日間作業生業八千十貫二百五十匁
二番茶 自六月十八日至七月二十五日三十八日間作業生業五千五百八十六貫三百五十匁
三番茶 自七月二十六日至九月八日四十五日間作業生業三千四百十二貫百五十匁
四番茶 自九月十二日至十月十一日三十日間作業生業一千四百十貫二百五十匁

此精製仕上り高

紅茶本茶三千九百〇八貫目紅茶出物六百七十六貫五百目有製造仕上作業延日數百八十三日ニ要シタル工人員

職工男定用六人 延人數一〇七七、四五 職工女定用六人 延人數一〇二六、九、三

臨時三人 延人數九五六人 右製造仕上ニ要シタル製造費

生葉代金 七六六、三七 工賃動力燃料雜費 二一四八、六四 生徒費 五六一、六〇

而シテ本年度四月一日ヨリ十一月末日ニ到ル製造費以外ノ諸經費ヲ舉ケレハ左ノ如シ

機械設備品其他設備費 一一八〇、四三 通信費雜費給料其他ノ事務費 一〇五三、四〇

右經費ニ對シテハ販路擴張委員會ヨリノ交附金雜收入金ヲ以テ填補支辨ニ供シタルモノトス 研究生ノ從事期間ハ例年ノ通り八月末日

ヲ以テ限リトシ九月十二日ヲ以テ本所正副會頭其他諸氏臨場ノ下ニ修了證授與式ヲ舉行シタリ(研究生ノ氏名等ハ茲ニ報告シタルヲ以テ茲ニ省略ス)

尙其他ノ事項ニ付キ大要ヲ舉ケレハ

五月十五日ヲ以テ兵庫縣紅茶研究所へ教師トシテ出張シタル研究生横倉榮太郎ハ八月二日ニ歸場シタル處更ニ命ニ依リ八月二十二日ヲ以テ再出張ノ上九月四日ヲ以テ歸場シタリ 八月六日農務局ノ紹介ニ依リ露國製茶検査官「トレンチヤコフ」氏一行五名來場視察セラレタリ 八月十五日靜岡縣聯合會議所小鹿研究所ニ於テ紅茶製造ヲ開始セルニ當リ乞ニ依リ講師トシテ上杉勝次ヲ出張セシメタリ、九月二十八日農商務省參事官柴山雄三氏國產獎勵會主事小財拾太郎氏來場セラレタリ 大谷會頭壽像除幕式贊助ヲ兼テ十一月十一日ヨリ靜岡市催貿易品々評會ノ開催セラレタルニ依リ紅茶一種ヲ出品シ一等賞ヲ授賞セラレタリ

○大正六年度製茶研究場事業報告

本年度ニ於ケル製造上ノ設備ハ、採捻機二臺ノ増置ト、精製用機械備兼玉切機一臺、唐箕二臺ノ新調トニ過キサルモ、萎凋棚ノ増設ト醗酵室ノ改修トヲ加ヘテ大ニ製産進展ニ資スル處アラシメタリ然ルニ本年ハ一方收穫ノ減少ト他方綠茶ノ好況トニ由ル影響ヲ受ケテ生葉ノ供給圓滑ヲ缺キタル爲メ一番茶ニ於テ唯増量ヲ示シ得タルノミニシテ三番茶ノ如キハ未漸昨年度ノ三分ノ一強ヲ收用セシニ止マルノ現状ナルハ聊以テ期待ニ反シタルノ現象ナリト云フヘキ也。コハ畢竟前陳ノ如ク氣候ノ變調ト茶樹ノ深刈トノ二者相俟ツテ三番發芽ヲ遲緩ニ陷ラシメテ收穫ノ減少ヲ來サシメタルト判ヘ、綠茶ノ好況ハ延イテ生葉買收ノ困難ヲ惹起セシメタルニ因ルモノナリ。此ノ生葉買收競争ノ結果ハ昨年度ニ於テ三十八九錢ニ開始シ三十四五錢ニ止マリシ相場カ本年度ニ於テハ四十二三錢ニ開始シ漸次昂上シテ八月末途ニ五十錢ニ出頭スルノ強勢ヲ示スニ至レリ。サレハ、此ノ際市場ト競争シテ迄モ收葉製造スルノ不利ナルヲ認メタルヲ以テ本場ハ暫其推移ヲ觀望スルノ態度ヲ取ル事トシタリ。

今製造作業ノ行程ヲ述ヘンカ一番茶ハ五月二日開始六月五日終了迄ニ總量八千〇拾貫餘。二番茶ハ六月十八日開始七月廿五日終了迄ニ總量五千五百八十六貫餘。三番茶ハ七月廿六日開始八月末迄ニ總量二千五百十八貫餘三期通計一萬六千五百十五貫目ノ收葉量ニシテ之ヲ前年度同期間ノ總量一萬七千六百六十一貫目餘ニ比スル時ハ實ニ千五百四十六貫目餘ノ不足量ヲ示スモノナリ。而シテ又生葉ノ相場ニ就テ述ヘンカ本年度ニ於テハ綠茶ノ強勢、收穫ノ減少等ニ左右セラレ常ニ強硬ヲ維持シ途ニ三期ヲ通シテ前年度ヨリモ高位ヲ示スニ到リタリ。今試ニ兩年度ノ對照ヲ舉ケレハ一番茶ハ前年度ノ平均四十二錢五厘ニ對シ四十三錢八厘即チ一錢三厘高。二番茶ハ三十二錢三厘ニ對シ三十四錢五厘即チ二錢二厘高。三番茶ニ到リテハ三十五錢七厘ニ對シ四十四錢七厘即チ九錢高ヲ示ス、尙又五月一日ヨリ八月末日ニ到ル四ヶ月間ニ於テ製造作業ニ要シタル人員ヲ舉ケレハ研究生八名一時生三名此延總員八百六十六人ノ外男女職工十三名一時雇二名此延總員千四百三人。別ニ棒拾ヒ女工八名此延總員二百六十四人ヲ算シタリ。

研究生ヲシテ專ラ製造實習ニ當ラシメタル事ハ初年來更ニ異ナル度ナキモ、昨年度初其端ヲ開キタル必需ノ學科講習ヲ施ス事ノ發露切ニ屬スルヲ感シタルヲ以テ本年度ニ於テハ作業ニ支障ナキ限リ餘暇ヲ凡テ此方面ニ利用シテ化學、土壤學、肥料學、昆蟲學等ノ大

要ヲ授ケ傍必要語學ノ教習ヲ得セシムル事ニ迄勵メタリキ。
 研究生諸氏カ數月間刻苦精勵ヲ效シタルハ實ニ多トスル處特ニ三期生ノ三氏カ其修得シタル技術ヲ示シテ率先誘導ノ衝ニ當リ實績ヲ
 舉グルニ之レ努メタルノ勞ヲ大ナリト謂フヘキ也。
 終リニ一言附加スヘキハ岐阜縣會議所ヨリ一時的ナリシモ特ニ三名ノ研究生ヲ入場セシメラレタルハ他日研究所開設ノ前提ヲ成スモ
 ノトシテ囑望ヲ表スル處、又兵庫縣會議所カ本年度率先シテ其所属紅茶研究所ヲ開設セラレタルハ、一ニ本場ヨリ教師トシテ研究生
 ノ派遣ヲ請ヒ得ヘキヲ期待セルニ依ルモノニシテ、本場ハ仍チ三期生横倉榮太郎氏ヲ派遣シ三茶期ヲ通シテ指導ニ當ラシメタルニ氏
 精勵事ニ當リ克ク其實ヲ全クシテ歸場シタリ。コレ管ニ本人ノ榮譽タルノミナラス又以テ本場ノ誇リトスル處研究生諸氏ノ前途又大
 ニ囑望ヲ有スルモノトシテ同慶ニ堪ヘサル也。以往是カ範ヲ成シテ漸次各地ニ普及シ愈本業ノ隆昌ヲ告グルアラン事ヲ望ムヤ切ナリ。
 本場第三年度研究事業ハ例年ノ通り八月末日ヲ以テ終了九月十二日終了證書授與式ヲ舉行シ大谷、尾崎正副會頭、中村本場主任、杉
 山茶園監督、海野出張所長(代理)倉島技手、山本日本製茶會社員ノ諸氏、其他本場職員一同列席ノ上左記研究生八名ニ對シ頭書ノ通
 ヲ夫々證書ヲ授與シタリ

第三期修了卒業證 三名

- 栃木縣 横倉榮太郎
 - 長崎縣 土肥茂
 - 静岡縣 江川可六
- 第二期修了證 三名
- 京都府 杉浦靜之助
 - 静岡縣 中山吉松
 - 同 平田重市

第一期修了證 二名

- 静岡縣 大高鼠次
 - 同 前田由太郎
- 以上八名

(附記) 第二期修了生平田重市ハ昨年度中途入場シタルカ故ニ、同年度ニ於テハ策一期ノ一部修了從業證ヲ交附シタル者ナルモ、
 證職ノ上本年度ニ於テ第二期修了證ヲ特ニ授與シタルモノトス。

伊達技師報告

本年度ハ紅茶研究場設置以來三年目ノ事ナルハ成ルヘク經濟的ニシテ良品ヲ得ントノ目的ニテ其設備ト機械ノ改良等種々ニ苦心着手
 セリ、就中乾燥機ノ改良ニハ最も苦慮セシ結果漸々ニシテ修業時分ニ至リ好良ナル曙光ヲ認メ得ラレタリ、而シテ試製ノ經過ハ紅茶
 研究場報告ニアルカ如ク前年度ヨリ約倍數ニシテ其成績ハ良好ニテ製品ハ悉皆米國及露國ヘ高價ニ賣行キタリ、倍多年經驗上必要ヲ
 感スル所ノ要點ヲ參考トシテ茲ニ特記ス、紅茶製造ニ就テ最も必要ヲ感シタルハ原料生葉ノ選擇ニアリ、元來本邦ノ茶園ハ各種類ノ
 混植ニシテ紅茶ニ適スル茶葉ト綠茶ニ適スル茶葉トヲ各別々ニ採收スル事ハ最も困難ナリトス是レ本邦紅茶ノ從來發展セザリシ最大
 原因ナリト思考ス、現ニ研究場ニ於テ紅茶ニ適スル茶葉ヲ以テ製精シタルモノハ印度錫蘭品ニ劣ラサル優良品ヲ得ラレタリ之レニ反
 シ混交茶葉ヲ以テ製スル時ハ其作業中一方ハ赤色ニ化スルモノ一方ハ綠色ヲ帶ヒ來ル等到底統一セス是レ素ヨリ種類ノ異ル所以ナリト
 雖モ又一ツハ氣候ノ差ニ因ル色素ノ多少ニ原因スルモノナリ、去レハ紅茶ノ製造ニハ先ツ第一ニ原料生葉ノ擇ヒ方カ最も肝要事ナリ
 トス原料生葉ノ選擇ニ就テハ現在ノ茶園ニ對シ紅茶ニ適當ナル多數ノ生葉ヲ採收セント欲スルハ到底望ミ得ヘカラサルモノナリ
 故ニ今ノ茶園狀態ニ對シテハ差當リ之レカ應急策トシテ最も日常好キ比較的色素ノ多キ山畑ニ注意研究シ其大體ヲ可ナリト認ムル
 茶園ヨリ採收スルカ今日ノ場合策ノ得タルモノト思考ス、尙ホ之レニ反シ樹木ノ近キ所若シクハ平地ニシテ日常リノ充分ナラサル茶
 園ハ比較的色素ノ少ナキモノナレハ紅茶ニハ適セサルモノナリ又肥料ノ少キモノハ紅茶ト雖モ香味ノ點ニ於テ劣等ナルハ論ヲ俟タス

抑本邦紅茶ノ發展ヲ期セントスルニハ其根源タル茶樹ノ統一ヲ肝要トス先ツ第一ニ紅茶園ヲ急設スルニアリ數年來各產地ヲ實驗上紅茶ニ適スル茶樹ハ數多アルヲ認メ得タリ故ニ之レカ應急策トシテノ方法ハ其適當ナル茶樹ヲ選擇シ之レヲ適當ノ場所ニ移植シ又適當ノ繁殖方法ヲ經營スレハ敢テ難事ニアラスシテ又實行ノ出來得サルモノニアラサルヘシ、之レヲ約言スレハ今ノ混植茶園ヲ各々特種ノ茶園ニ大整理ヲ行ヘハ足レリト云フヲ得ヘシ

船腹問題ト茶稅問題

○大正六年度製茶輸送ニ關スル船腹問題ノ顛末

一、歐洲戰亂ノ影響トシテ漸ク船腹不足ノ聲高マリ引ヒテ製茶ノ輸送ニ困難ヲ來スコトアラシク憂ヘ
静岡茶業組合聯合會議所ニ於テハ四月十二日付ヲ以テ左記ノ上申書ヲ静岡縣知事ニ呈出シ併セテ本所
ヘモ其筋ヘノ稟請方依頼シ來リタルヲ以テ本所ニ於テハ四月十八日付ヲ以テ左記ノ通り逕信農商務兩
大臣宛テ願書ヲ差出シタリ

大正六年四月十八日發第三號

茶業組合中央會議所

會頭 大 谷 嘉 兵 衛

逕信大臣男爵 田 健治郎殿

製茶輸送米國航路船艙缺乏補充ノ件ニ付静岡縣茶業組合聯合會議所ヨリ別紙寫ノ通り同縣知事ヲ經テ上申致候ニ付テハ既ニ製茶時期切迫ノ折柄我カ製茶貿易ニ多大ノ影響有之候次第ニ御座候間宜敷御洞察ノ上何卒願意徹底致候様特別ノ御詮議被成下度別紙寫相添此段奉願候也

第廿五號 上 申 書

歐洲戰亂發生以來我カ製茶貿易ハ幸ニ好影響ヲ蒙リ大正四年度ハ輸出額三千九百餘萬封度同五年度モ既ニ前年ト同額以上ヲ輸出

スルノ好況ヲ呈シ候此好況ヲ持續セル原因ハ種々有之候モ彼ノ印度錫蘭支那茶ハ戰時船腹缺乏ノ爲運賃騰貴シ隨テ茶價モ騰貴シタルニ對シ日本茶ハ此累少ク茶價カ他國茶ニ比シテ低廉ナリシモ其主因タリシハ疑フ可カラサル次第ニ御座候然ルニ本年ニ入リテ以來我カ船腹モ此影響ヲ受ケテ漸ク缺乏ナリテ輸出重要諸港ニ於ケル貨物ノ停滯逐日増加致候ノミナラス運賃保險料亦騰貴シ某大汽船會社ハ昨大正五年ノ運賃命令自由臨時船共日米間一噸六弗六十仙ナリシモノ本年ハ命令船八弗自由船十弗臨時船ハ實ニ二十五弗昨年ニ比シ四倍騰貴ナル旨ヲ告ケ而モ滯留増加ノ結果製茶輸出ノ如キモ命令自由ノ兩船船ハ殆ント是ヲ得ルニ難ク辛クシテ最高價ナル臨時船ニ依ルノ外無カルヘキ現狀ニ御座候而シテ米國及加奈陀ノ市場ニ於テハ茶貨多カラサル様子ニシテ引續キ需要有之早クモ本年ノ貿易ハ好況ヲ豫想セシムルモノ有之候カ爾レ本年ノ我カ製茶貿易ヲ觀レハ物價騰貴ニ基クテ生産費ノ高騰ニ加フルニ此運賃ノ騰貴ト船腹ノ缺乏トカ昨年ニ比シ非常ノ不利ノ地位ニ立ツノ已ムヲ得サルニ至リ候勿論當業者モ製茶貿易増進ノ爲能ク限リテ忍耐ト奮勵トヲ以テ業ニ從ヒ候モ既ニ如上ノ茶價騰貴ニ依リテ輸出ノ減少ヲ來タヌ無キヤノ懸念モ有之候折損萬一船腹缺乏シテ茶貨ノ停滯ヲ見ルカ如キ事アラシカニ忽チ日本製茶貿易ノ減退ヲ招キ候ハ明瞭ニシテ當業者ノ只管憂慮措ク能ハサル所ニ御座候希クハ前記事情ヲ御明察アラセラレ我カ國產貿易ノ隆盛ヲ圖ランカ爲茶貨ニ對シテ船腹ノ缺乏ヲ告ケシメサル事ヲ各汽船會社ニ御訓諭有之候様閣下ヨリ主務大臣ニ御稟申テ併セテ福ヲ未然ニ防止スヘク何分ノ御盡力ヲ仰キ度大正六年四月九日本縣茶業組合臨時聯合會ノ決議ニ基キ此段上申仕候也

大正六年四月十二日

靜岡縣茶業組合聯合會謹所

會頭 尾崎 伊兵衛

靜岡縣知事安河内麻吉殿

一、續テ四月二十五日左記寫ノ通り日本、大阪、東洋ノ三汽船會社ヨリ各製茶荷主宛テ來狀アリタルヲ以テ一般茶業者ニ大恐慌ヲ來シ之カ善後策ヲ講スル爲メ靜岡ヨリ縣内務部長、尾崎元次郎、原崎源

作、中村圓一郎、北川米太郎ノ諸氏當業者ヲ代表シテ上京來所セラレ大谷會頭、相澤理事、松浦專務等ト會シ協議ノ結果左記ノ請願書ヲ携へ一同遞信農務商兩省へ出頭シ兩大臣ニ面謁シテ之ヲ奉呈シ猶詳細願意ヲ陳述シタリ

發第三四號 請書ノ要旨

去ル四月二十五日突如トシテ別紙譯文之通り日本郵船、大阪商船、東洋汽船ノ三社ヨリ製茶荷主ニ對シ清水濱濱兩港ニ於ケル本年度製茶積取量通告相成候處右ハ昨年度ノ三社積取量ニ對シ五割六分弱ニ當リ其餘ノ汽船會社ヲ合シタル積取總量ニ對シ三割五分強ニ相當致候處本年ハ前記三會社以外ノ汽船ハ殆ント全ク製茶積取ノ餘裕無之候處及候ニ付テハ事實ニ於テ前年ノ三分ノ一ヨリ輸出スルヲ得サル事トナリ多年銳意開拓シタル販路一朝ニシテ失フ事トナリ當業者ノ困憊ハ勿論國家ノ損失トナルヘキヤ明カナル事ニ有之候加之ナラス今ヤ既ニ茶芽摘採期ニ入り一日ノ猶豫ヲ許サハ時ニ方リテ生産家ハ摘採ヲ開始スル事ヲ得ス茶商ハ米國得意先ノ注文品ヲ買入ルノ事ヲ得サルノ狀態ニ在リ斯クシテ時機ヲ失スルニ於テ得意先ハ本邦茶ニ對スル注文ヲ取消シ他國茶又ハ咖啡ヲ購フニ至ルヘク我カ製茶貿易ノ上ニ由々敷大事ニ有之候

是ニ於テカ在靜岡ノ外國茶商モ去ル一日集會ヲ催フシ別紙ノ通り決議書ヲ本會頭ニ致シ當局へ衷願方依頼相成候就テハ國產獎勵海外貿易發展ノ爲メニ日夜焦慮セラレ、貴大臣ニ於カセラレテモ吾等當業者ノ衷願ヲ諒トセラレ左記ノ願意徹底スル様御高配相仰キ度候

一、前記三社ノ積荷數量ハ是非共前年通りニスル事但シ運賃ハ通告通りノ事

一、其餘ノ積荷ハ三會社ニ於テ總テ適宜ノ方法ヲ以テ輸送完了相成ル様御配慮ヲ蒙リタキ事

大正六年五月三日

茶業組合中央會議所

農商務大臣 仲小路 廉殿

逓信大臣 田 健次郎殿

三會社ヨリ荷主側ニ發シタル通告書ノ譯文 定期船ニ依ル製茶ノ輸送

目下太平洋貨物輸送力ノ缺乏其極ニ達シ東洋諸港ニ於テ北米合衆國及加奈太ノ太平洋沿岸向輸出荷物ノ停滯甚シキニ拘ハラヌ下
記三會社ハ本年製茶期間清水及横濱兩港ニ於ケル製茶積取りノ爲メ定期船ニ左記ノ通り船腹ヲ用意致シ置キ候間此段御通知候也
日本郵船會社四十立方呎容積 七千二百噸約十六隻
大阪商船會社 同 六千五百噸約十三隻
東洋汽船會社 同 二千二百五十噸約五隻

定期船ニヨル日本諸港(基隆ヲ除ク)ヨリノ製茶運賃率ハ左ノ通りニ候
太平洋沿岸諸港マテ四十立方呎ニ付金貨八弗内地普通港マテ通シ運賃百封度ニ付金貨七十五仙外鐵道運賃

(右増賃ハ政府ノ認可ヲ得テ補助ヲ受ケル流船ノミニ適用セラル、モノナリ)
大正六年四月二十五日

日本郵船株式會社
大阪商船株式會社
東洋流船株式會社

米國沿岸ニテ製茶荷物輸送運賃比較

一噸當リ十兩正味 八百「ポンド」ニ付	壹「ポンド」ニ付	一噸當リ十兩正味 八百「ポンド」ニ付	壹「ポンド」ニ付
六弗五十仙	〇仙八〇(一錢六厘〇)	二	二十
八	一仙〇〇(二錢)	三	十五
十	一仙二五(二錢五厘)	三	十
十	一仙八七(三錢七厘五)	四	十
二十	二仙五〇(五錢)	四	十
			弗
			三仙一二(六錢二厘五)
			三仙七五(七錢五厘)
			四仙三七(八錢七厘四)
			五仙〇〇(十錢)

一、五月七日静岡ヨリ船腹委員再ヒ出京本所ニ於テ協議ノ上同委員ハ逓信省ニ赴キ管船局長ニ面談同
時ニ大谷會頭ハ逓信大臣ヲ官舎ニ訪ヒ重ネテ懇願スル所アリ

一、一方船會社トモ直接交渉スルノ必要ヲ認メ左記ノ覺書ヲ携ヘ五月十日尾崎、相澤、松浦、西ノ四
氏郵船會社ヘ出頭シテ覺書ノ通り提案ヲナシ充分懇談ヲ遂ケ引取ル

記

- 一、大正六年五月九日附御回示第一項三會社引受總量(清水、横濱積)ヲ定期船臨時船ヲ通シ四萬五千噸トスルコト
- 一、同第二項ノ運賃ハ全部ニ對シ一率ニ才量一噸ニ付米貨拾五弗トス但シ神戸四日市ヨリノ荷物ニ對シテモ同様ノコト
- 一、同第五項ノ臨時船積取地ヲ横濱ニ限ラズ定期船同様清水ヘモ寄港セシムルコト
- 一、其他ノ條項ハ全部同意ス

以上

一、三日間ヲ經過シテ十四日ニ至リ郵船會社ノ黒川外航課長三汽船會社ヲ代表シテ回答ヲ齎ラシ來ル
其回答ノ要領ハ第一運賃ハ一噸ニ付平均二十弗タルコト、第二積載總量五萬噸ヲ三社ニテ責任ヲ以
テ引キ受クル代リニ實際ノ積量五萬噸ニ充タサル場合ニハ空積運賃ヲ申受クルコト其他二三ノ附帶

條件アリシカ要スルニ二十弗ノ運賃ハ到底當業者ノ堪ヘ得ル處ニアラサルカ故ニ委員協議ノ結果重
ネテ主務省ノ配慮ヲ煩ハスコトトシ左ノ上申書ヲ携ヘ委員一同遞信農商務兩省ヲ訪ヒ大臣或ハ次官
ニ面謁シ陳情スル處アリ

上申書

今回ノ船腹不足ト運賃ノ暴騰ハ我カ國外國貿易開始以來未曾有ニシテ之レカ爲本邦貿易ノ開祖タル製茶ノ輸出モ將ニ杜絶ノ運命
ニ類セントス是レ斯業ノ爲將タ國家ノ爲メ洵ニ慨歎ノ至リニ堪ヘス今之レヲ救済スルトセサルトハ唯帝國三大汽船會社ノ方針如
何ニアルノミ則チ三會社ハ重要國產タル製茶貿易死活ノ鍵鑰ヲ握ルモノニシテ其責任ヲ重且大ナリト云フヘシ殊ニ製茶ノ如キハ
分量ノ割ニ價格低廉ナルヲ以テ運賃ノ高低ハ忽チ其價格ニ至大ノ影響ヲ及ボスコト別紙運賃比較表ニ依ツテ見ルモ明カナリ
日本茶ハ其ノ生産費ト市價ノ關係上他國茶及咖啡ニ比シ最モ薄利ナルカ故ニ一封印ノ價格ニ於テ一仙二仙ノ騰貴ハ忽チ取引ニ影
響ヲ及ボシ注文主ハ其ノ注文ヲ取消シ他國茶又ハ咖啡ヲ購フニ至リ斯クシテ一旦移リタル嗜好ヲ挽回スル事ハ亦容易ノ業ニアラ
スシテ遂ニ本邦製茶貿易ノ衰滅ヲ來スニ至ルヘシ而モ猶吾等ハ方今海運界ノ大勢ニ鑑ミ汽船會社ノ要求モ或程度迄ハ之ヲ諒トス
ルカ故ニ吾等ニ於テモ忍ブヘキハ之ヲ忍ビ誠意ヲ披瀝シテ交渉ヲ重ネ前年ノ製茶一噸運賃六弗五拾仙ヨリ一躍シテ倍額以上ニ高
メ平均拾五弗ノ妥協案ヲ提示シタルモノナルニ汽船會社側ハ依然トシテ最初ノ提案平均貳拾貳弗ヲ固守シテ動カス如斯ク殆ト禁
止的増率ニシテ吾等當業者ノ到底堪ヘ能ハサル處ナリ堪ヘ能ハサルカ故ニ交渉不調ニ了ハラシカ製茶輸送ノ途ナク輸送ノ途ヲ開
カントセハ三會社ノ要求ニ屈從セサルヘカラス彼ノ要求ニ應センカ一噸運賃十三弗五拾仙ノ増加ハ製茶一封印ノ價格ニ於テ一仙
七厘ノ増加トナリ(一仙七厘ノ増加ハ我カ製茶輸出額ニ對シ約百四十萬圓トナル)忽チ需要ノ減退ヲ來シ輸出削減スヘキハ火ナ暗
ルヨリモ明カナリ而シテ而シテ我茶業組合カ年々數萬ノ財ヲ投シテ開拓シツ、アル販路モ水泡ニ假シ政府國產獎勵ノ趣旨ニモ悖
リ延イテ國富ノ基ヲ斷ツニ至ル不幸吾等微力ニシテ亦如何トモ爲ス能ハス袖手他ノ爲スカ儘ニ任スノ己ムナキニ至ルハ洵ニ痛嘆

堪ヘサル處ナリ

叙上ノ願末ヲ具シ茲ニ重ネテ請願仕候間何卒御覽察ノ上我カ製茶貿易前途ノ爲メ何分ノ御高慮相煩ハシ度謹シテ上申仕候也

大正六年五月十四日

茶業組合中央會議所

會頭 大谷嘉兵衛

農商務大臣 仲小路 廉殿

逓信大臣男爵 田健治郎殿

一、静岡ノ荷主側ニ於テハ更ニ内外人ニヨリ委員會ヲ組織シ「ゴットリープ」氏委員長トナリ「ハント」
古谷ノ諸氏ト共ニ數回上京シ本所ト汽船會社トノ間ニ立チテ斡旋スル處アリ

一、數日間ニ亘リ主務省汽船會社及本所間ノ交渉ニ於テハ波瀾曲折アリタルモ終ニ當局ノ公明ナル判
斷ト汽船會社ノ情誼アル讓歩トニ依リ運賃平均十八弗ト決定シ當業者モ亦當然ノ成行トシテ之ヲ認
容シタリ、本所ハ之ヲ以テ本問題ノ交渉ヲ打切り船積ノ細目ニ付テハ汽船會社ト荷主側船腹委員會
トノ直接交渉ニ委シタリ然シテ六年度ノ製茶輸送モ極メテ圓滿ニ進歩シ積載量モ優ニ責任噸數ヲ超
過シ委員會ハ其事務ヲ終了シ大正七年二月八日付ヲ以テ左ノ報告書ヲ本所會頭ニ致セリ

拜啓陳ハ謹キニ製茶荷主委員會ト三汽船會社トノ間ニ締結シタル製茶五萬噸積載契約既ニ終了ヲ告ケ右契約ノ下ニ事實積送リタ
ル製茶總量實ニ五萬百三噸ニ及ヒ申候即チ

日本郵船會社

二萬八百十七噸

大阪商船會社

一萬九千七百十五噸

東洋汽船會社

九千五百七十一噸

本契約締結ニ際シ與ヘラレタル費下ノ御援助ニ對シ荷主一同ニ代リ厚ク感謝ノ意ヲ表シ候貴下ノ御高配ニヨリ日本製茶輸出業者ノ受ケタル利益蓋シ甚大ナリシコトヲ信シ感銘ニ不堪候先ハ右御報告勞々御禮迄如此ニ御座候敬具

大正七年二月八日

靜岡ニテ

製茶荷主委員會

書記兼會計

エツチ、セー、ヘリヤ

茶業組合中央會議所

會 頭 大谷嘉兵衛殿

○米國茶稅問題

米國議會ニ於テハ殆ンド毎年歳入査定ニ際シ財源トシテ茶珈琲ニ課稅スルノ議論起ルヲ常トス大正六年度議會ニ於テモ復亦同問題起リタルカ今回ハ軍事議會ナルカ爲メ特ニ當業者ノ注意ヲ惹起シタリ最初四月二十二日付紐育矢田總領事ノ電報ニ依レハ茶一封度ニツキ十五仙ノ課稅案豫算委員會ニ提出セラレタリト云ヒ、五月十日付同領事ノ電報及十一日付佐藤大使ノ電報ニヨリ從價一割ト變更セラレタリト云ヒ續テ五月二十五日付佐藤大使ノ電報ニヨリ茶一封度十二仙珈琲一封度六仙ニ修正セラレタリト傳ヘ或ハ消費稅トシテ茶ニ五仙珈琲ニ二仙ヲ課セルルヘシト云ヒ區々ノ報道頻々トシテ來リ當業者ヲシテ五里霧中ニ彷徨セシメタリ仍テ本所ニ於テハ四月二十八日紐育市米國茶業組合會頭「モンゴメ

リ」氏宛左ノ意味ノ電報ヲ發シタリ

「茶稅ハ製茶貿易ヲ阻害スルモノナルカ故ニ之カ反對運動ニツキ貴組合ノ御協力ヲ願フ」

右ニ對シ五月十二日同組合ヨリ左記ノ返電ニ接シタリ

「課稅ハ全然政府ニ一任スヘキモノト評議委員會ニ於テ一決セリ」

猶此問題ニ付テハ注意ヲ怠ラサリシニ遂ニ議會ヲ通過スルコトナクシテ消滅シタリ之レ「ウイルソン」

大統領ノ政綱ニ照シ寧ロ當然ノコトナルヘシ(終リ)

本所直營シアトル日本茶寮

Japan Tea Pavilion

主任(本所出張員)

S. W. Cor. Fifth Ave. and University St.,

加藤祐義

Seattle, Wash., U. S. A.

ロングビーチ日本茶寮

The Japan Tea Pavilion

經營者 相澤城之助

236. The Pike, Long Beach, Cal., U. S. A.

クリップハウス日本喫茶店

Japanese Tea House.

經營者 渡邊重夫

Cliff House Terrace, San Francisco, Cal., U. S. A.

金門公園日本喫茶店

Japanese Tea Garden

經營者 萩原真

Golden Gate Park, San Francisco, Cal., U. S. A.

○全國茶業組合聯合會議所所在地及役員

府	縣	所	在	地	役員
東京府		東京市芝區芝口三丁目五番地			泉田猪太員
京都府		紀伊郡伏見桃山字最上			田口傳右衛門
大阪府		大阪市西區靱南通り五丁目五十一番地			玉井源次郎
神奈川縣		多紀郡篠山町ノ内乾新町二十五番屋敷			上野完一
兵庫縣		長崎市築町四十五番地			柴谷太郎
長崎縣		入間郡川越町入間郡役所内			未定
埼玉縣		水戸市上市五軒町一二二七番地			谷掛八郎
茨城縣		水戸市西城戸町八三ノ二			小掛十三
奈良縣		津市大字下部田公園前			未定
三重縣		靜岡市追手町二百二十九番地			谷掛八郎
靜岡縣		大津市中京町第十番屋敷			岩池幸太
滋賀縣		岐阜市下太田町			池田英文
岐阜縣		能美郡小松町字土居原町			堤田英文
石川縣					谷掛八郎

府	縣	所	在	地	役員
岡山縣		英田郡倉敷町英田郡役所内			武松太郎
和歌山縣		和歌山市廣瀬通り町三丁目三十五番地			松田信太郎
愛媛縣		愛媛縣農會内			友森五郎
高知縣		土佐郡潮江村三千八百八十七番地(假事務所)			井西精一
福岡縣		八女郡福島町大字木町一ノ四六			大石琢郎
熊本縣		熊本市西千反畑町物産館内			鏡山利
宮崎縣		宮崎郡宮崎町字上別府			部野利
鹿兒島縣		鹿兒島市易居町二十八番地			河野德夫
横濱市茶業組合		横濱市機木町一丁目			川上平衛
神戸市茶業組合		神戸市栄町通り五丁目五十九番地			岡野七門
長崎市貿易茶業組合		長崎市五島町			中野兵衛

自明治二十一年至大正五年

年次	横濱		神戶	
	斤量	價額	斤量	價額
明治二十一年	一八、〇〇六、四八三	三、六一九、五二一	一三、三三八、九〇九	二、一三〇、
同二十二年	二六、五八三、四七四	三、五七五、四四八	一三、五五五、〇〇七	二、五〇九、
同二十三年	三〇、七七五、四五二	三、六三四、四九一	一五、三三七、五〇〇	二、六三〇、
同二十四年	三三、五四四、四二五	四、三五四、七三三	一六、〇〇四、三三四	二、六八七、
同二十五年	三三、九九〇、一九六	四、五五五、九三三	一五、二一六、四四六	三、〇三三、
同二十六年	三二、八四一、七八八	四、八八八、八六六	一三、四四一、〇〇五	二、七四四、
同二十七年	三三、〇七三、七三四	四、八九三、六九五	一三、六五五、〇一九	二、八八七、
同二十八年	三三、七五九、五二一	五、二一九、〇〇八	一五、五五八、三三五	三、五九一、
同二十九年	三〇、七四四、四七〇	四、二七七、七九九	一一、九三三、三三八	二、五八八、
同三十年	一九、九九八、七〇〇	五、一〇〇、九四四	一一、八二二、六三三	二、七三九、
同三十一年	一九、九二一、四〇七	五、四五二、四七〇	一〇、八六六、七三三	二、八八八、
同三十二年	二二、一四一、七四六	四、三九四、七三三	一三、五五六、〇〇九	二、九九九、
同三十三年	一九、四七五、八八二	五、四〇〇、七六三	一三、〇〇〇、九三三	三、〇〇〇、
同三十四年	一八、三〇〇、五三三	五、〇四四、四一五	一二、一八八、八七	三、四三三、
同三十五年	一八、五〇〇、七九九	六、二六三、九四四	一一、八四一、五三	三、七〇一、
同三十六年	三三、〇九一、六二八	九、三三三、九二九	一四、〇七〇、九一八	四、七二二、
同三十七年	三三、一三三、八四三	八、〇八八、九三三	一三、四八八、八七	四、二四四、
同三十八年	二六、七〇〇、七五五	六、六九二、九四二	一〇、五八七、七四五	三、五八四、
同三十九年	一四、三六八、八三〇	五、五六一、三四五	八、四七〇、七三	二、六九八、
同四十年	一三、四九四、一四五	五、八六六、六九九	九、三六六、九三三	三、四〇四、
同四十一年	九、九三三、八二四	四、一五七、七三六	七、〇九九、六六九	二、四八六、
同四十二年	一一、〇六五、七一九	四、四七〇、七三三	六、七五五、九九	二、六二八、
同四十三年	九、二八一、九三五	三、九七〇、四四四	六、八七〇、三三七	二、六四五、
同四十四年	七、二八八、六四五	三、三二七、九九八	五、〇〇〇、〇九七	一、九八八、
同四十五年	七、〇五八、〇三三	三、三三三、七五五	四、六三四、五四五	一、九七七、
大正元年	五、三九三、〇六四	二、三五一、七七	三、四八七、七三	一、二八八、
同二年	四、九六六、〇〇六	二、三〇〇、九九九	四、三三三、三〇七	一、〇〇一、
同三年	五、〇一一、五八一	二、五三三、六七四	五、八六六、八九六	二、八二三、
同四年	五、八〇一、七三三	二、六六六、九九九	八、四八八、八三	三、九九三、

明治二十一年二月二十九箇年間橫濱、神戸其他各港製茶海外輸出港別對照表

(本表中三十七年迄ハ會計年度チ) (以下曆年ノ調ヘニ依ル)

額	神戶		大板		長崎		清水		四日市		其他各港		合計
	斤	價	斤	價	斤	價	斤	價	斤	價	斤	價	
六、九六五	三、三六八、六九	二、一〇三、八九	三、三六八、六九	二、一〇三、八九	一、七五五、四五〇	七、三六六	未詳	未詳	未詳	未詳	二、三〇八	九、九	五、八八、八七
五、七五、四八	三、五〇四、〇七	二、五九、五〇	三、五〇四、〇七	二、五九、五〇	六、九〇、一三四	三、三六四	未詳	未詳	未詳	未詳	六、四六	八、一	三、〇八、二一
六、三〇、四三	一、五三、七五	二、六〇、一七	一、五三、七五	二、六〇、一七	一、三三、一五	六、八六	未詳	未詳	未詳	未詳	一、六二四	三、〇	六、三三、二九
五、五五、一三	一、六一、四三	二、六〇、一七	一、六一、四三	二、六〇、一七	三、八七、三三	四、五五	未詳	未詳	未詳	未詳	二、三六四	一、五	六、九八、五三
八、八八、八七	一、五三、七五	二、七四、三三	一、五三、七五	二、七四、三三	一、三六、八六	九、〇三	未詳	未詳	未詳	未詳	一、九四八	七、八	七、七九、〇八
八、九三、六二	一、三三、七三	二、八七、七三	一、三三、七三	二、八七、七三	一、二六、七〇	七、三三	未詳	未詳	未詳	未詳	三、八九三	六、四	八、八〇、一七
二、九〇、〇〇	一、五三、七五	三、五九、五〇	一、五三、七五	三、五九、五〇	一、〇九、三三	六、三三	未詳	未詳	未詳	未詳	二、七〇九	四、五	六、四七、八〇
二、七三、七三	一、九三、三三	二、三九、九三	一、九三、三三	二、三九、九三	一、〇七、八〇	九、三三	未詳	未詳	未詳	未詳	二、七〇九	三、八	七、七九、〇八
一、〇〇、九四	一、八三、一三	二、七九、〇七	一、〇〇、九四	二、七九、〇七	一、〇七、八〇	三、八三	未詳	未詳	未詳	未詳	一、七〇一	三、〇	三、三九、〇五
四、五、四七	一、〇六、七三	二、八八、〇一	四、五、四七	二、八八、〇一	三、七、七〇	三、〇五	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
三、九四、四七	二、五三、〇〇	三、九三、四三	三、九四、四七	三、九三、四三	三、七、七〇	三、〇五	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
四、〇〇、七三	三、〇〇、九〇	三、六〇、〇〇	四、〇〇、七三	三、六〇、〇〇	三、七、七〇	三、〇五	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
〇、七四、四五	二、一八、一〇	三、四三、四〇	〇、七四、四五	三、四三、四〇	一、八、八七	一、五、八七	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
二、八三、九四	一、一八、〇一	三、七〇、七三	二、八三、九四	三、七〇、七三	一、八、八七	一、五、八七	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
三、〇三、九三	一、四〇、七九	四、七三、七九	三、〇三、九三	四、七三、七九	二、六、〇九	二、七、五	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
〇、八八、九三	一、三三、八七	四、三三、七六	〇、八八、九三	四、三三、七六	六、九〇、一三四	三、三六四	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
六、九三、九四	一、〇、五〇	三、三三、六〇	六、九三、九四	三、三三、六〇	七、六、二五	九、〇三	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
五、八、三四	八、四三、五七	二、六九、三三	五、八、三四	二、六九、三三	二、九、〇三	三、九三	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
八、六、六五	九、三三、九三	三、四三、五三	八、六、六五	三、四三、五三	二、七、二二	五、六六	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
一、五、七三	七、〇九、六九	二、四三、六六	一、五、七三	二、四三、六六	二、七、二二	五、六六	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
四、八、七二	六、七五、五九	二、八八、八〇	四、八、七二	二、八八、八〇	二、九、〇三	三、九三	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
九、六、九四	六、八七、六七	二、六四、六三	九、六、九四	二、六四、六三	二、九、〇三	三、九三	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
七、一、九八	五、一〇、〇七	一、九八、二八	七、一、九八	一、九八、二八	二、八、四二	三、八、四二	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
三、三、一七	四、六四、五五	一、九七、七〇	三、三、一七	一、九七、七〇	二、八、四二	三、八、四二	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
三、五、七三	三、四三、七三	一、二八、〇六	三、五、七三	一、二八、〇六	二、八、四二	三、八、四二	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
三、〇、九三	四、三三、三三	一、六〇、一七	三、〇、九三	一、六〇、一七	二、八、四二	三、八、四二	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
五、三、六七	五、八四、八六	二、八三、〇八	五、三、六七	二、八三、〇八	二、八、四二	三、八、四二	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五
六、七、九三	八、〇八、八三	三、九三、七四	六、七、九三	三、九三、七四	二、八、四二	三、八、四二	未詳	未詳	未詳	未詳	一、〇七三	三、〇	三、三九、〇五

大正七年二月十四日印刷
大正七年二月廿四日發行

〔非賣品〕

編輯兼
發行者 東京市本郷區駒込上富士前町三番地
大和人

印刷者 東京市芝區愛宕町三丁目一番地
太田泰男

印刷所 東京市芝區愛宕町三丁目一番地
佐脇印刷所
電話芝二四二五番

發行所

東京市京橋區宗十郎町十番地
電話墨新橋二三二六番

茶業組合中央會議所

1421
354

終

